

エンパワーするNGO



## 特集：つなぎたい 私の居場所



ちいきにひろがれ ふくしのわ

# わいわい通信

**Vol.29**

**2020.3**

神戸YWCA 地域福祉部ニュースレター





## も く じ

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 活動紹介・ボランティア募集中！・・・・・・・・・・ | 3  |
| 特集 つなぎたい 私の居場所 ・・・・・・・・・・ | 4  |
| グループ近況報告・・・・・・・・・・        | 11 |
| 被災者支援プロジェクトからの報告・・・・・・・・  | 17 |
| ありがとうございました！・・・・・・・・・・    | 19 |



### 地域福祉部って ...

1995 年の阪神・淡路大震災を契機に、神戸YWCAでは9つのボランティアグループが生まれました。神戸YWCA地域福祉部は、それらのグループの横の連携を深め、神戸YWCAの考える地域福祉～一人ひとりが存在そのものを大切にされる地域社会づくり～を実現するために活動しています。

各グループの活動について会員内で情報を共有し協力しあうだけでなく、神戸YWCAにつながるボランティアどうしの交流、内外へのそれぞれの活動の情報の発信なども行なっていきます。



# グループ活動紹介

一緒に活動してくださる方を大募集しています !!!

| グループ名                | 活動紹介・ひとこと                                                                                               | 活動日時                                                  |
|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <b>高齢者のサポート</b>      |                                                                                                         |                                                       |
| わいわいデイルーム            | 食べて語って歌って手を動かします。お話やゲーム、手芸など、楽しく活動しています。                                                                | 毎週火曜<br>10:00～15:00                                   |
| 弓の木 歌の集い             | 灘区弓ノ木南市営住宅の高齢者による歌の集い。                                                                                  | 第3火曜<br>14:00～15:00                                   |
| <b>子どもと家族のサポート</b>   |                                                                                                         |                                                       |
| ちゃいやあらんど             | 子どもと家族のためのフリースペース。ハロウィンなどの季節イベント、つくろう会や音楽セッションもあります。ぜひ参加してください。                                         | 第1・3水曜<br>11:00～15:00                                 |
| <b>野宿している人の支援</b>    |                                                                                                         |                                                       |
| 夜回り準備会               | 野宿している人の支援。灘区・東灘区で野宿している人を訪問してお話を伺っています。参加してみませんか？                                                      | 第2・4土曜<br>18:00～22:00                                 |
| <b>当事者と仲間たちのスペース</b> |                                                                                                         |                                                       |
| カフェもぐもぐ              | 若年性認知症の人とその仲間たちが集い、学び、仕事づくりをめざしています。ぜひご参加ください。                                                          | 第1土曜<br>10:30～15:00                                   |
| <b>地域交流スペース</b>      |                                                                                                         |                                                       |
| 新食事会<br>(名称募集中！)     | 新しい食事会を一緒に作りませんか。これまでと同じように、美味しいランチをいただく時あり、利用者とボランティアの垣根のない食事づくりと交流の時あり。みんなが楽しめる時間となりますように。            | 当初は<br>第3・4金曜<br>10:00～14:00<br>(11:30～13:30<br>オープン) |
| ときどき<br>木曜カフェ        | 地域の人たちが気軽に立ち寄ったり、つながったりできるスペースをご一緒に作りませんか。カフェを開き、こだわりの乾物や調味料を販売。リサイクルショップ「くるくる」も、ときどきオープン(13:30～15:00)！ | 不定期<br>木曜 13:00～<br>16:00<br>(14:00～15:30<br>オープン)    |

# 特集 つなぎたい 私の居場所

「わいわいランチ」と「わいわい亭」は、2020年3月末で「しまう」ことにしました。20年あまり、「誰もが住み慣れた地域で豊かに暮らす」を目標に多少ともお手伝いが出来たと思っています。これからも形や規模が変わっても、目標に沿った活動を続けます。

## わいわいランチを閉じる

1998年から22年間続いてきた「わいわいランチ」を今年度末で終了することにした。

利用者さんには2020年の年明け、お知らせをお届けしご理解をお願いした。利用者さんの反応のほとんどは、「エーッ!」「おいしかったのに残念」「困るわ～」から、「次はどうしたらいいの」「紹介してもらえますよね」と続けられるのだった。私たちにとっては、予想し、緊張して臨んだ瞬間だったが、ほんとに困ったという顔を前に、申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

「ランチ」は分室・地域活動の中でも数量的に大きな部分を占め、利用者さん以外の方々からもたくさんの期待・応援をいただいていた。そして、携わるボランティアにとっては、やりがいのある活動場所だった。その「ランチ」を閉じることに至った経緯を、関わってくださった方々にぜひご理解いただきたいと願う。

### ●ボランティア不足が深刻化

人手不足はいつものことだったが、最

近は深刻さが増していた。配達車のドライバーについてはこの数年で、75歳になり運転免許を返上した、病気にかかり運転できなくなった、数少ない現役の方も仕事の都合で来られなくなったなど、長年休みなく働いてくださった方々が抜けることになった。新しい方に不定期でも頼む、他の曜日に入っているドライバーに週に何度もお願いするなどでしのいでいるが、無理が重なることが心配だ。先日は、一時応援をお願いしていた方が急病で倒れられるという事態も発生した。調理担当者も皆さん長年元気に働いてこられたが、2～3年前からはときどき、病気や怪我で長期間休むことも出てきた。



金曜食事会

簡単に代わることのできない、ドライバーや調理担当の欠員は深刻だ。

ランチに限らず分室でのボランティアは皆さん、長年活動されているベテランだ。それだけ高齢化しているわけで、体調を壊したり、無理がきかなくなっている。世の中では定年が延び、定年後ボランティアをしようという人が少なくなったのか、新しいボランティアが来られない、来られてもすぐにやめられることが続いた。年々経済的に厳しくなっている社会で、まったく無償のボランティア活動を望むことは難しいように思える。

## ●持続可能な財政への取り組み

2015 年、年間配食数が前年度より 970 食（1 日あたり平均 4.2 食）も減ったことから、2016 年、「持続可能なランチ活動」を目指して「財政検討チーム」を立ち上げ、財政改善に取り組み始めた。経営の経験者から助言を受け、他団体の活動からも学んだ。そこで明らかになったのは、配食数・「数」の問題だった。2016 年当時、1 日あたりの平均配食数は 26.9 食だったが、損益分岐点（収支プラマイゼロ）までもっていくには、1 日あたり、あと 30 食増やさなければならぬことがわかった。30 食はとんでもない数字だ。助言者からは夕食のニーズが高い、夕食配食に取り組んではどうかと助言を受けた。「チーム」は、夕食配食の試行や、レンタカーを使っての大量配食への対応などを検討したが、ボランティアの確保、調理・配膳場所

の限界などで、試行には至らなかった。しかし、チラシの配布、安心すこやかセンターへの宣伝、福祉団体へのアピールなど、配食数を増やすことには努力した。2017 年度には、準備、片付けが効率的なりサイクル容器に変更し、配食数増加に備えた。容器変更の一番の目的は衛生的に優れていることであったが、以降、配食に出かける時間を早めることができた。それらが功を奏して、2018 年は年間配食数が 6,838（1 日あたり 29.3 食）と、2015 年度より約 2,100 食増、2010 年度の歴代最多数まであと 280 食に迫れた。

2017 年度は、利用者さんにも協力をお願いし、お弁当代を 50 円値上げした。2016 ～ 2017 年度は庶務人件費の削減にも取り組んだ。しかし、「あと 30 食」並みの財政には到達できなかった。

## ●「数」の問題

2004 年から配食活動に対する神戸市の助成金が廃止された。「神戸市配食サービス事業」で市の指定を受ければ 1 食 350 円（配達料）の助成金がつく。しかし、応募条件は、サービス対象地域



調理する



が区全域にわたるため、私たちには対応できないものだった。

「数」が少ないからこそ、ボランティアだからこそ、利用者さんに喜んでいただけるお弁当をお届けできた。

1日1回でも手づくりで家庭的なお料理をいただくことが、どれだけ生きるエネルギーにつながるのか、今の行政に届かないのが残念だ。

お総菜を詰め合わせる



## ●活動拠点の課題

2001年以来、ご厚意により、分室を無償でお借りし活動をすすめてきた。自前の活動拠点を準備するためにも、各プログラムの財政改善、持続可能化は必須だ。

## ●終了の決断から今後へ

ボランティア不足、財政問題と厳しい現状の中、2018年後半あたりから「ランチ」終了の検討を始め、決断に至った。それからは新たな事業の模索に取りかかってきた。配食活動とは形が違っても、一人ひとりが大切にされる地域づ

くりのため、皆で助け合い、働きたいという心は受け継いでいく。今まで関わってくださった皆さんと、また新しい活動とともに働けることを願う。22年間の「わいわいランチ」活動、ほんとうにお疲れ様でした。御支援、ご協力をありがとうございました！

(川辺比呂子)

## 新たな活動に向けて

「わいわいランチ」終了にともない、19年間共に歩んできた「わいわい亭」も、3月で閉会になる。「わいわい亭」は、近隣の一人暮らしの高齢者に呼びかけて食事会を催し、「わいわいランチ」と同じ内容のお弁当を提供して、「食」でつながる地域の居場所としての役目を果たしてきた。「いいところが見つかって良かった。ケアマネさんと一緒に喜んでいるよ」と利用者さんから言われ、そんな感謝の言葉が長年の活動の原動力となった。

今まで「わいわいランチ」や「わいわい亭」の活動にどれほど多くの人が関わってきただろう。みんなで分室に頻繁に出入りし、思いをひとつに懸命



弁当を積み込む



に働いた。しかし、活動を中止するとこの大切な「場」を失ってしまう。それ故「わいわいランチ」を閉じる決断は、本当に難しく、断腸の思いであった。

そこで、私たちは何度もミーティングを持ち、今まで大切にしてきた思いを何かの形で残せないかとみんなで話し合った。現在活動中のボランティア、利用者、会員が次にどうつながっていくかも重要課題であった。

新しい活動作りを検討する中、「食」をテーマにした居場所づくりや配食活動を実践し、成果を上げているグループを見学するため、東京へも研修に出かけた。そこで多くのことを学び、ヒントも得られた。私たちはさらに検討を重ね、今やっと二つの新しい活動の形が見えてきた。

まず、第一に「新しい食事会」である。対象は高齢者だけではなく、多世代が集う「つながりの場」としたい。それから今まで調理者に任せていた食事作りに、みんなができるだけ参加する。食材の準備から調理、配膳までを分担する。「わいわいランチ」や「わいわい亭」の利用者に参加を呼びかける。

手づくりの食事を楽しむだけではなく、何か他のプログラムを組み合わせると興味が増し、参加しやすいのではと考えている。参加メンバーを募って4月からのスタートをめざし、準備中である。

もう一つの新しい試みは、「生活支援の活動」である。これは、神戸YWCAを総合サポートセンターとしてとらえる

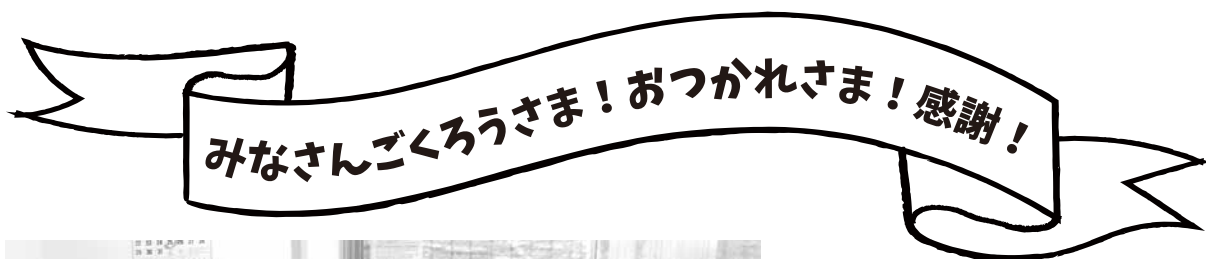


弁当を届ける

構想から生まれたもので、「食支援」だけでなく、「生活支援」もできないかと考えている。神戸YWCAには介護事業所「まごの手」があり、日々地域の人々の生活支援に取り組んでいるが、介護保険制度では手が行き届かない仕事をヘルパーさんから聞き取りをしながら、まず何ができるかを模索していきたい。この活動をスタートするには、まだまだ準備に時間がかかりそうだ。

今まで関わってきた人も初めての人も、4月からの新しい食事会に参加していただき、ワンチームとなって、試行錯誤しながら、新しい活動に取り組んでいきたい。

(三浦 啓子)





# わいわいランチのあゆみ

1995.1

1998.4

2001.4

2004.4

2006.4

## 阪神淡路大震災

「震災炊きだし」から仮設住宅や避難先へ弁当を届ける。約 10 食、1 食 200 円。

グループ K として、週 2 回、ボランティア 3～4 人で被災者、高齢者、病弱者に届ける。

## わいわいランチは始める

月～金、昼食の配達。  
キャフェテリアで調理、ボランティア 3～4 人で配達。  
約 15 食、400 円。  
神戸市から毎日型の助成を受ける。

## 分室に移る

ボランティア 3 人で配膳、配達。  
調理 2 人は有償ボランティア。  
約 20 食、450 円に改訂。

## 弁当代を500円に改定

神戸市が助成金の見直しへ

## 金曜食事ははじめる

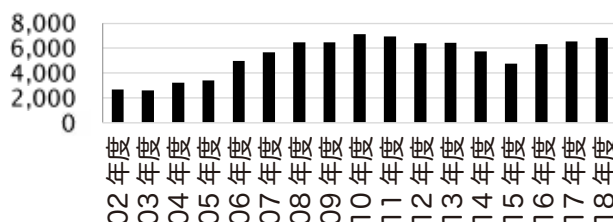
### ☆立ち上げ時の思い☆

まだ元に戻れない避難先や仮設住宅、復興住宅の方から、続けてお弁当を届けてほしいとの声があり、「地域のニーズに応えるために、特にひとり暮らしの高齢者へ見守りと共にお弁当を届けたい」との思いがあった。また「YWCA ならではの家庭料理と利用者の方々との心の触れ合いを支えにグループ運営を発展させていきたい」と考えていた。

2004～2006 年度に神戸市の施策は会食型へと助成金の利用見直しがなされた。それによりランチでも毎月 1 回金曜に食事会をおこなうようにした。ランチへの助成金は 2006 年には 2003 年の 4 割弱と大幅な減額となった。2010 年ごろまではほぼ同額の助成金を受けていたが、2010 年以降は助成項目の見直しが行われ更なる減額となった。

## 配食数の推移

### 配食数





2004 年、  
2007 年の介護保険の見直しから、配食利用者が大きく伸び、約 1.5 倍になった。  
2008～2013 年、6,400 食を超えた。

寄付金で車（今の分室号）を購入

弁当代を 600 円に改定

2010 年度 7111 食に。最高数

2015 年度 4753 食、2006 年度と同レベルに

2016 年 4 月から「財政検討チーム」を作る。持続可能な経営や活動のために、財政の見直し、新容器の検討、負担軽減につなげる活動マニュアルの見直し等に取り組んだ。

2016 年度は 6,316 食に回復。2017 年度、2018 年度は、それ以上をキープ。赤字解消には、毎日さらに 30 食の弁当販売が必要との数字が出たが、その達成は難しい。

弁当代を 650 円に改定。味噌汁なし、リサイクル容器に変える

わいわいランチ終える

2020 年度、神戸 Y W C A 100 周年を機に全事業の見直し論議が始まった。課題を解消できない「ランチ」をしまうことにした。これからは「住み慣れた地域で豊かに暮らす」を目ざして活動していく。持続可能な食支援や居場所づくり、生活援助の活動を提案する。

可愛いオレンジ色の車体がすてきです。5 ドアのラクちんな事。活動がスムーズにすすむと好評です。

毎日 30～35 食配達。終了時間が 13 時を超えることもしばしば。調理開始を 9 時から 8 時 30 分に前倒し。11 時からの配達開始を心掛ける。

- ①施設管理費、車両関連費等の増加で大赤字。
- ②ボランティアの人手不足と高齢化。
- ③調理や配食ボランティアの負担軽減が課題に。



# 近況報告

## わいわい亭

福田 啓子

わいわい亭の活動に、2018年9月から参加させてもらっています。

毎月第2・第4水曜日、ランチの配達ボランティアの人達が出発したら、わいわい亭の準備を始めます。私が担当させてもらうのはお弁当作りです。ランチと同じおかずをお弁当箱に見栄えよく詰めます。おかずはいつも、沢山の食材が入って彩り豊かです。やさしい味つけでとてもおいしいので、盛り付けながらも少し、もう少しと、つい入れすぎたりもします。

その間に利用者さんが一人、二人と来られて、待合スペースで毎回様々な脳トレ問題に取り組まれます。

12時頃から会食が始まります。弁当箱の蓋を開けた時に「わー、おいしそうね」と言ってくれるのがうれしいです。熱い味噌汁も好評です。調理担当の方に、作り方をたずねる利用者さんもおられます。

食後は、和・洋菓子、時には手作り「白玉入りぜんざい」などのおやつをお出しします。皆さんきれいに召し上がって下さいます。

ふだんの昼食は、一人で食べる事が多い私にとって、利用者さん、ボランティ

アの先輩方とおしゃべりしながらの会食は、毎回楽しみです。

利用者の皆さんは、年齢よりも若々しくて、おしゃれをされて来られます。わいわい亭に来る事が元気の素となり、楽しんで頂けるように、微力ですがボランティア活動を続けていければと思っています。



食事の後、なつかしい曲を歌うのも楽しみです。

## わいわいデイルーム

新井 育子

毎週火曜日 11 時、「改めておはようございます。今日は何月何日ですか？」のかけ声と共にデイルームのプログラムが始まります。

認知症やフレイル予防のための体操、歌、脳トレ、音読、ゲーム…と様々なメニューで、みんなで楽しく活動しています。時には話が弾みすぎ、利用者さんや



誤嚥予防にも首の体操

スタッフ達のツッコミで横道にそれて、考えてきたプログラムが半分しかできないという嬉しい誤算もあります。

昼食は、わいわいランチの心のこもったおいしいお弁当をいただきます。そのおいしいお弁当の裏には、デイルームのスタッフ達の努力があります。利用者それぞれの苦手な食材を取り除き、ごはんの量も考えて、きれいに盛り付けるスタッフ達の姿が。また、あるスタッフは、月一で包丁研ぎをすとか。午後のプログラムにもわがデイルームスタッフ達は、その特技で大活躍！クラフト工作に折り紙に音楽療法。これからもますます楽しませてくれることと思います。

分室もこの4月から大きく様変わりますが、私達はこれからも分室で今まで通りわいわいと楽しく活動していくつもりです。

興味のある方はぜひのぞきにきてください。ご一緒に楽しく過ごしませんか。ボランティアスタッフとしてのお手伝いも大歓迎です！

## 包丁を研ぐ

私がデイルームに関わるようになったのは、わいわいランチボランティア

を辞してからです。お手伝いを初めて8年になりました。

毎週火曜日の朝9時過ぎに出務して脳トレのプリントを準備して利用者の到着を待ちます。以降はスタッフのひとりとして活動します。

時々、午後のプログラムのクラフト工作に携わります。特に11月の「みかんアート」は好評を得ています。丸ごとのミカンにカッターで切り目を入れて剥ぐと、次の年の干支が切り取られます。卯から始まり、申、酉、戌、亥、子ですみました。その他、牛乳パックの体操人形、立体パズル、かご作り等々。

また、月に一度、ランチ調理用の包丁を研いでいます。事務室の手洗い場に板をわたし、水を十分浸した砥石を置く。砥石の上に左手の指を研ぐ刃の裏にあてがい刃を上下させ、満遍なく50回ほど研いだら裏返して同じ要領で研ぎ、また裏返しを繰り返して研ぎ、最後にバリをとれば完了。切れ味を取り戻した包丁を手にした調理の人からお礼と言われると、少しでもお役に立てているのかなと思っています。



ミカンアートに取り組む  
今年の干支庚子（かのえ・ね）



私にとって、わいわいデイルームはボランティア兼利用者のような立場です。いつも一緒に活動している方々に感謝しながら、楽しい時間を過ごさせてもらっています。(青柳 正)

## わいわいランチ

大工原 則子

25年前の阪神淡路大震災の折、神戸YWCAは救援センターを立ち上げ炊き出しをしました。それから私達は、被災に会われテント生活を余儀なくされている方や仮設住宅に住まわれている方の所へ、お弁当をお届けする事をはじめました。最初は週2回でしたが2001年から分室をお借りし、毎日型へとすすめることが出来ました。

現在、ボランティアが交代でお弁当の用意をし、配達のために運転して下さる方と共に、中央区を中心に配食を続けて来ています。

ほんとうに沢山の方々の援助ご協力を頂き今迄続けられて、深く感謝致しております。その為日々お世話下さる調理の方、全体をコーディネートして



連係プレーで弁当容器にごはんを入れ、平らにする、ゆかり粉をふりラップをかける。

くださる方があり、すべてが廻っている事を改めて思います。そして一人ひとりが責任を持って関わり、連携プレーのお陰でこれまで問題もなく続けてこられ、何よりうれしく思います。

分室はランチ以外での活動の方達と出会える場、そしていつも賑やかで活気ある場所でした。交流の出来る楽しい時に喜びを感じ、これまで続けて来られたことを有難く思っています。

## 弓の木歌の集い

橋本 静子

2019年6月に、今迄弓の木南市営住宅側の中心的存在で、積極的に「歌の集い」にも関わってくださったメンバーのS氏(男性)が突然亡くなりました。レパートリーを増やそうという事で、市販の歌集から選曲、楽譜を拡大プリント製本して下さり、それを使って皆でうたった3日後だったと伺いました。今までも親しいメンバーの何人かの方を見送り、その都度淋しい思いをして来ましたが、今回は特に皆が更に高齢化している事もあって、余計に大きなショックを受けました。この事を機に健康悪化の不安のため来られなくなった方もあり、12月現在では市住側の参加者は全員揃って4人となり、新しい加入者も望めない状態に到りました。ここ数年10年1日の如く続けてきた「歌の集い」の屋台骨がグラグラと揺らいで来た感じがしています。

1999年開始の最初からYWCAから同じメンバーが係わってきました

が、共に年を重ねて、高齢者の負う体の衰えや愛する者との別れ等心身共なる重荷を理解し合い、慰め合って来ました。それぞれの思いを抱いて歌うこの集いが、往年の自分や時代、それに伴う思い出を甦らせ、癒やしと力を受ける貴重な一時になっていたのだと思います。

こんなに永く続けて来られたのも、高齢者同志でこの一時を共有し積み重ねて来たからかもしれません。

## 夜回り準備会

野々村 耀

2019年の夜回りは従来通り。

### 気になったこと

- ・何度か追い立てや、襲撃があった。
- ・新しい人に出会った。これまで気付いてなかったが、自転車で走って気付いた。
- ・東京では五輪の為に公園から追い出される人がある。
- ・東京台東区の台風避難所が野宿の人を拒否し、それを良しとするTV報道もあった。神戸市も震災の時、同じことをしたのを思い出して、神戸市長に「今はどう考えているか？」と質問状を送った。
- ・外で寝にくくなったので、ネットカフェで暮らす人が増えている。やはり市長に調査するよう求めた。

### 2020年 やってみたいこと

- ・不可視化された人を可視化したい。
- ・労働と福祉はますます悪化：個人事業



神戸東遊園地での炊き出し

主・ギグワークという非正規労働（無権利・無保障）を問題にしたい。

- ・アウトソーシング：公的なものの民営化：国鉄・郵政だけでなく、役所の仕事・公園・図書館・文化センター・公民館・指導事業など。神戸ではスマスイ（須磨水族館）も。本来公的に行われるべき福祉に関わる事業も民間委託される。安上がり福祉は必ず劣化する。共犯になりたくない。
- ・市民の差別から排除や襲撃が起こることを広報したい（ベンチに仕切りをいれる、歩道橋の下などに金網を張るなど）。例えば、三宮マルイ前の歩道橋の下。このような行政のやり方が市民の差別意識を作り、排除や襲撃に繋がっていく。
- ・今年度はミーティングや学習会をやりたい。

## ちやいやあらんど

木村 文子

今年の「ちやいやあらんど」は縮小



親世代の私たちが知らない遊びを教えてもらう。  
対戦相手になってもらって嬉しい！

を考えるとところから始まった。4月から私自身小学校PTAの本部役員に就いたこと、昨年協力的だったママ友が職場復帰をしたこともあり、自分がしていた企画や運営、参加者集めに限界を感じていたからだ。

決して全て一人でやってはいないが、全体のスケジュールなど全体像を考えるなど運営業務が上手くないので、時間に余裕がなく結局一人でしてしまうことが多かった。

しかし年度が変わり、「ちゃいやあらんど」に以前携わっていた方を講師として招いた「スクラップブック」は月1回でも大好評。2年目に入った「ぬいぬい」では秋の本館バザーや子供向け企画にも進出。イベントとしても定着し、ありがたいお付き合いが続いている。人とのつながりというものの強さやすばらしさを改めて感じる1年だった。

2020年度は活動拠点である分室の変化を活かしつつ、本館への活動拠点の引っ越しを参加者と共に少しずつでも実行していきたいと考えている。

## 木曜カフェ

斎藤 明子

「丹波さんが来ましたよ！」という叫び声は、音楽セッションも中断させる。新鮮で変わった野菜があり何より安い。近所の固定客もやって来る。ぶっきらぼうな売り主も名物となっている。買い物が終われば、音楽セッション「プリプリバンド」に戻る。毎月第4木曜に好きな曲を練習して楽しむ仲間だ。バザーやクリスマスにも出演依頼が来る？バンドで、楽器もリコーダー、ギター、ウクレレ、コカリナ（知られざる名楽器）、キーボードと多彩。持ち曲も大人の曲あり、「アンパンマン」のような楽しくのる曲あり。



現在は、ギター、ウクレレ、リコーダーソプラノとアルト、コカリナ、キーボードで音楽セッション。

第3木曜は「くるくる」の日。近所の顧客が覗いてくださる。そして、分室に集うボランティア達が互いに客になったり、売り子になったりして、買い物を楽しむ。単価が安いのでおしゃれの



4月のくるくる。お似合いの服をすすめる。

チャレンジが楽しい。最後に本日の売上高がおごそかに宣言されると、皆拍手して木曜カフェのコーヒーを楽しむ。木曜カフェはこんな居場所だったのだ。2020年4月から、このままの形で集えたらうれしい。

## カフェもぐもぐ

宮田 泰子

今年のカフェもぐもぐは、沢山いろいろなところにお出かけしました。



お花見  
みんなの笑顔も満開でした。

4月は分室からすぐの筒井八幡神社でお花見を楽しみました。みんなでつくった見事なお花見弁当を大きなさくらの木の下で広げました。春を体感、みんな記念写真に収まりました。

6月は布引ハーブ園を散策。もちろんそれぞれ自前のお弁当持ちで緑の中のハーブとバラの香りに囲まれて、目も鼻も心もお腹も刺激を受けたり、癒やされたり、甘い匂いに誘われて豊かな時間を過ごしました。



午後のプログラム  
楽しいゲームで盛り上がりました。

11月は長田界限B級グルメの食べ歩きを計画、あれもこれとも思いつつ美味しいお好み焼きでおなががいっぱいになりました。1995年の震災から立ち上がった長田界限の商店街をふらふら探索しながら、感慨深い時間を過ごしました。

カフェもぐもぐは、みんなが意見を出し合い、したいことを考えながら楽しみながら活動を進めて行きたいと思っています。次年度も啓発活動を通して仲間をふやし、認知症についての学びを深めたいと思っています。



# 2019 年ーこの 1 年の報告

被災者支援プロジェクト 鶴崎 祥子  
福田 百

2020 年 3 月 11 日で東日本大震災・福島原発事故から 9 年目を迎えます。今年度の被災者支援プロジェクトの歩みをお知らせします。

福島原発事故以降、被災者の家族の方に、一時的な保養として自由に過ごしていただく場として設けられたセカンドハウス。今年は（4～12 月）9 家族 27 人（内子ども 11 人）が休みを利用して、神戸の地まで足を運んでくださいました。私たちは大家さん（YWCA 会員）と、利用される前後に掃除を行い、短くても気持ちよく生活して頂ける準備を整えました。また、交流の一夜として夕食会をもち「福島の今」を

も聞きました。

活動の中で「今の福島をどれだけ知っているか」の声があがり、今年はより福島と繋がることを考えていた時、福島 Y・仙台 Y 主催「8 年目の福島を体験するツアー」が 2019 年 6 月 23～24 日に実施されることを知りました。早速プロジェクトメンバーを含め 5 人が参加しました。「原発があって幸せですか」というテーマで企画されたこのツアーは参加者総数 39 人。宿泊した土湯温泉は地熱利用であり、原発でないエネルギーを活用とのこと。初めて知る地熱のバイナリー発電計画で、地域活性地産地消の明るい



保養で来られたご家族との交流会。  
いつものお好み焼き屋で。



話題でした。一方、原子力発電所の解体は人間が踏み込めないだけに、「遠隔技術センター」の見学では、ロボットなどの最新技術が期待を抱かせ頼もしく見えました。しかし、現場との連携に不安を感じました。放射線量の高いところをバスで通る時、新しい建築物の中に無残な姿の家が点々とするのを見ると、「帰宅困難地域の村長さん」の政府や東電への憤りは、福島に住む人の思いも込められて、とても辛く思いました。福島へ行き、知ることが



セカンドハウスのおそうじ  
照明器具を取り替え？ 点灯しました！

どんなに大きい意味があるかを改めて思わされたツアーでした。

では、神戸でセカンドハウスだけでなく、ほかに何ができるかと思う時「ポーポキ・ピース・プロジェクト」のロニー・アレキサンダーさんからの申し出があり、神戸 YMCA とロニーさんと神戸 YMCA の三者でプログラムを具体化しました。(ポーポキはロニーさんが飼われた猫の愛称)。参加者約 20 人のう

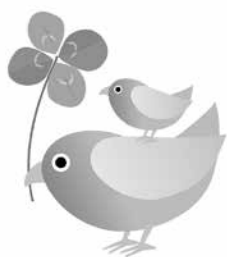
ち神戸 YMCA からは 8 人参加しました。初めに核兵器が世界各地に途切れることなく打ち続けられている動画に釘付けになりました。メインの加藤裕子さんのお話は、福島原発の初期被曝で放射能をもろに受けられ、関西に引っ越されたこと。今度は福島から「出た」「残った」の問題などが持ち上がり、一家族だけでなく福島に生きていく人、移住していく人に様々な問題が今も続いていることが語られました。

今年一年の被災者支援プロジェクトの歩みは、福島へ行くことで福島とより繋がる道が、まだまだあることを教えられました。(鶴崎 祥子)



セカンドハウスの庭そうじ

以上のように進められた被災者支援プロジェクトであるが、いま過渡期を迎えている。東日本大震災・福島原発事故とどのように向き合うのか。今後起こりうる震災に対して、私たちは何ができるのか。そして、誰と共に歩み続けるのか。活動の中でそれぞれが感じるものを大切にしながら、考えていければと思う。(福田 百)



## ありがとうございました!!

(2019年1月1日～12月31日)

### 地域福祉部へのご寄付など ご協力くださった方々 (順不同・敬称略)

＊万が一お名前がもれている場合にはご一報いただけましたら幸いです。

|       |        |       |       |
|-------|--------|-------|-------|
| 青柳正   | 川辺比呂子  | 高森久江  | 二宮百合子 |
| 東昌宏   | 木下スミ子  | 武田多美  | 野々村耀  |
| 新井育子  | 呉雅枝    | 田平正子  | 橋本静子  |
| 井上みち子 | 小林礼子   | 谷合公江  | 原昌義   |
| 井上序子  | 齋木彰    | 築山智津子 | 藤岡政雄  |
| 入江徹   | 佐伯かをる  | 鶴崎祥子  | 増田征子  |
| 岩崎滋   | 坂本昭子   | 寺内真子  | 三浦啓子  |
| 大江雅子  | 塩見洋子   | 徳岡和美  | 三原翠   |
| 大島幸子  | 島田恒    | 内藤進夫  | 森良子   |
| 大島寛   | 杉原伊津子  | 長澤毅   | 森原寄指子 |
| 岡山直道  | 下田隆清・  | 中島昭子  | 山下暁美  |
| 小野敏嗣  | 鄭秀珠・由楽 | 中田洋子  | 吉田英三  |
| 亀岡恒雄  | 高橋智子   | 中村昭子  | 吉田俊弘  |
| 川上和恵  | 高原佐美   | 長江麻紀  | 米岡史之  |
|       |        | 西山秀樹  | 渡辺順子  |

いちじま丹波太郎 サロンドゆめさき

食品公害を追放し安全な食べ物を求める会

特定非営利活動法人 CHARM 青木理恵子 日本基督教団神戸栄光教会

弓の木南市住むつみの会

＊ みなさまのご支援・ご協力が神戸 YWCA 地域福祉部の活動を支えています。今後もご支援・ご協力をいただけますと幸いです。

【郵便振替】 01100-0-10298 公益財団法人神戸 YWCA

【銀行口座】 三井住友銀行 三宮支店 普通 1015232  
公益財団法人神戸 YWCA





発行：

## 神戸YWCA 地域福祉部

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-12-10  
tel. 078-231-6201 fax. 078-231-6692  
e-mail: office@kobe.ywca.or.jp  
www.kobe.ywca.or.jp

### 神戸YWCA 分室

〒651-0062 神戸市中央区坂口通 5-2-16  
tel. & fax. 078-221-5111  
e-mail: bunshitsu@kobe.ywca.or.jp

2020年、神戸YWCA創立100周年

## YWCA

(ワイ・ダブリュー・シー・エー  
(Young Women's Christian Association) は…

キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際 NGO です。

